

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名：株式会社セントメディア

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画			
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数		実施内容	
1	職務の理解 6時間	1	職務の理解 6時間	1	職務の理解
	(1) 多様なサービスの理解	(1)	同左 3	(1)	講義のみ
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	(2)	同左 3	(2)	講義および演習 ケアプランから始まるサービス提供にいたるまでの一連の流れ、チームアプローチ、他職種との連携地域社会資源との連携等、介護サービスの提供について話し合
2	介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2	介護における尊厳の保持・自立支援 9時間	2	介護における尊厳の保持・自立支援
	(1) 人権と尊厳を支える介護	(1)	同左 1.5	(1)	講義および演習 事例からQOLの向上についてグループで討議し、 事例の気持ちの変化を分析し、グループでワークシートにまとめ
	(2) 自立に向けた介護	(2)	同左 7.5	(2)	通信講習のみ
3	介護の基本 6時間	3	介護の基本 6時間	3	介護の基本
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	(1)	同左 1.5	(1)	講義および演習 自立支援についてグループで討議し、第7回以降の演習に繋がるものをワークシートにまとめる。
	(2) 介護職の職業倫理	(2)	同左 1.5	(2)	講義のみ
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	(3)	同左 1.5	(3)	通信講習のみ
	(4) 介護職の安全	(4)	同左 1.5	(4)	通信講習のみ

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 介護保険制度	(1) 同左 1.5	講義および演習 (1) 介護保険についてグループで討議し、制度についてワークシートにまとめる。
(2) 障害者総合支援制度及びその他制度	(2) 同左 4	(2) 通信講習のみ
(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左 3.5	(3) 通信講習のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左 3	(1) 通信講習および講義
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左 3	通信講習および講義および演習 (2) 各職種の役割をグループでワークシートにまとめる。
6 老化の理解 6時間	6 老化の理解 6時間	6 老化の理解
(1) 老化に伴うこととからだの変化と日常	(1) 同左 3	講義および演習 (1) グループにて体温測定をペンなどを使用し、実際に行う。
(2) 高齢者と健康	(2) 同左 3	(2) 通信講習のみ
7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解
(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 同左 1.5	(1) 講義のみ
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 同左 1.5	(2) 通信講習のみ
(3) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	(3) 同左 1.5	講義および演習 (3) 事例を用いながらグループにて討議をし、認知症の利用者への対応をワークシートにまとめる。
(4) 家族への支援	(4) 同左 1.5	(4) 講義のみ

別記第1号の2様式

8 障害の理解	3時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10~13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50~55時間
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	

8 障害の理解	3時間
(1) 同左	1
(2) 同左	0.5
(3) 同左	1.5
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	12時間
(1) 同左	4
(2) 同左	4
(3) 同左	4
イ 生活支援技術の講義・演習	51時間
(4) 同左	7
(5) 同左	3.5
(6) 同左	6
(7) 同左	7
(8) 同左	6
(9) 同左	7

8 障害の理解	
(1) 通信講習のみ	
(2) 通信講習のみ	
(3) 講義および演習 障害をもつ家庭への支援方法についてグループで討議し、ワークシートにまとめる。	
9 ころとからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 通信講習および講義	
(2) 通信講習および講義	
(3) 通信講習および講義	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 通信講習および講義	
(5) 通信講習および講義	
(6) 講義および実技演習 2人一組で交代で座位保持不可の利用者の衣類着脱を実技演習する。	
(7) 講義および実技演習 2人一組で交代で全面介助でのベッド、車椅子、トイレの移動・移乗を実技演習する。	
(8) 講義および実技演習 2人一組で交代で食事を食べさせる介助および口腔ケアの実技演習する。	
(9) 講義および実技演習 2人一組で浴室での介助のロールプレイングおよびベッドでの洗髪の実技演習する。	

別記第1号の2様式

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(10) 同左	7	講義および実技演習 (10) 2人一組でトイレ介助のロールプレイングおよびおむつ着脱の実技演習する。
(11) 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	(11) 同左	6	講義および実技演習 (11) シーツ交換等のベッドメイキングや、2人一組で褥瘡予防体位変換の実技演習する。
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	(12) 同左	1.5	(12) 講義のみ
(実習)* (50～55時間中12時間以内)	(実習)*	時間	(実習)*
介護実習 ○時間			
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間			
在宅サービス提供現場見学 ○時間			
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	ウ 生活支援技術演習 12時間		ウ 生活支援技術演習
(13) 介護過程の基礎的理解	(13) 同左	6	(13) 講義および実技演習 事例を基に個別援助計画の作成演習を行う。
(14) 総合生活支援技術演習	(14) 同左	6	講義および実技演習 (14) 2つの事例を基に一連の介助技術を行い、実技習得の評価を受ける。
10 振り返り 4時間	10 振り返り 4時間		10 振り返り
(1) 振り返り	(1) 同左	3	講義および演習 (1) 研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての演習を行う。
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	(2) 同左	1	講義および演習 (2) 継続的な研修について、事例を基に具体的にイメージできるような事業所における介護の紹介を行う。
追加カリキュラム			
計 (130時間)	計 (130時間)		

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。